

日本臨床環境医学会環境アレルギー分科会 2020 年度企画書

委員長 平 久美子

これまでの経緯

近年、喘息、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなどのアレルギー疾患の有症率は世界的に増加の一途を辿り、その傾向は子どもで顕著である。その原因の一つとして、環境アレルゲンの増加が指摘されている。

そこで我々は、アレルギー問題を環境アレルゲンの観点から整理し、環境アレルゲンの測定法や環境改善によるアレルギーの防止対策を学際的に検討し、まとめることを目指し、2018 年 12 月の発足以来、6回の分科会会合を東京工業大学田町キャンパスにおいて行った。毎回各委員から情報提供を受け、総論、疫学、ダニ、ハウスダスト、カビ、花粉、イソシアネート、室内化学物質などについて、学際的に検討を重ねてきた。

2020 年 3 月以降、新型コロナウイルス感染症の流行のため、6 月に予定されていた外部講師を招いての学会総会の分科会シンポジウムが延期となった。face to face の会合が難しいため、2020 年 7 月 3 日、東京工業大学の WEB 会議システム(ZOOM)を用い分科会会合を開催した。回線状態は全員良好で、Power Point によるプレゼンを共有し、意見交換を行うことができた。委員の所属が、北は秋田から、西は大阪まで、全国に跨るため、今後 WEB 会議システムの活用が増える予定である。

2020 年度の活動計画

1. 環境アレルゲンに関する各分野の知見を報告書にまとめる

すでに 12 名の委員から、各分野の総説形式の原稿が提出済みで、残り 3 名の提出待ちである。デジタルデータであれば、ほぼ経費はかからないと考えられる。

2. 外部講師を招いての WEB 会議の開催

関連分野の研究者に WEB 会議で講義いただき、講義録を提供いただく。

謝礼として、1回1-2万円を想定している。

3. 一般向けの情報提供の検討

アレルギー疾患を予防改善するための室内環境の改善案について、各対策のリストと推奨度を検討し、一般向けの情報提供を目指す。

以上